

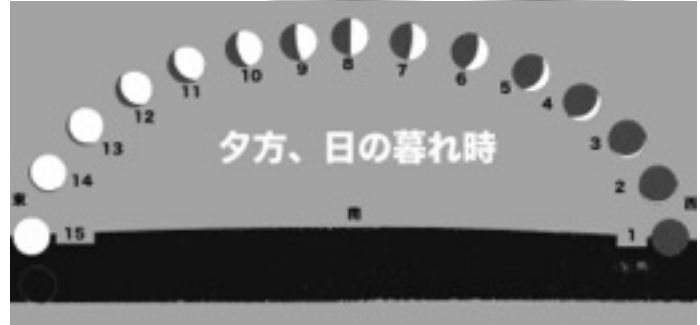
# クルリンとほしぞらさんぽ 6月号



## 日暮れがおそくなりました

6月21日（水）は、北半球において1年の内でもっとも昼間の時間が長い夏至げしです。伊勢原のあたりでは、日の入りの時刻が午後7時ちょうどぐらい、日の出の時刻は午前4時25分ぐらいで、夜の長さは約9時間25分となります。

ちなみに12月の冬至とうじの日には、日の入りは午後4時32分ごろで、日の出は午前6時47分ごろ、夜の長さは約14時間15分ですから、なんと5時間近く夜の長さが違うのですね。



## 夜の長さくらべ



## 月を見よう

日の入り時刻が午後7時でも、それで空が完全に暗くなるわけではありません。太陽が地平線に沈んだとしてもまだ空には明かりが残っています。1時間ぐらいかけてだんだんと暗くなっていきます。完全に暗くなるまでのうす明かりが残っていることを天文薄明てんもんはくめいと言います。6月ごろに、天文薄明が終わり本当に暗くなるのは午後8時を過ぎてしまいます。

これでは気軽にほしぞらさんぽとはいきませんね。いつそのこと6月は月の観察に切りかえてしまいませんか。

## 月の形は29日で一回り 月齢げつれい

月が太陽の方向にあって、全く見えない夜は「月齢1げつれいいち」と言います。月齢3の月が「三日月」とよばれています。月齢15の夜は満月になります。

## 6月中に 月の観察ができる日は

1ヶ月の間、まいばん月が見えているわけではありません。4年生の皆さんが月を見ることが出来る日は、今年は6月9日から6月22日ごろまで

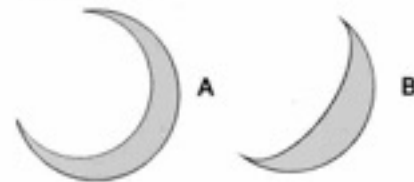
だけです。6月9日は日没前に西の低い空に細い三日月が見えます。その後も日没前の空に月を探すことになります。21日には日没とだいたい同じ頃に東の空から満月が上ってきます。

南側の空がなるべく広く開けている場所を探して、月の観察場所にしましょう。お天気さえよかったら毎日観察してみましよう。

## どっちが本当？

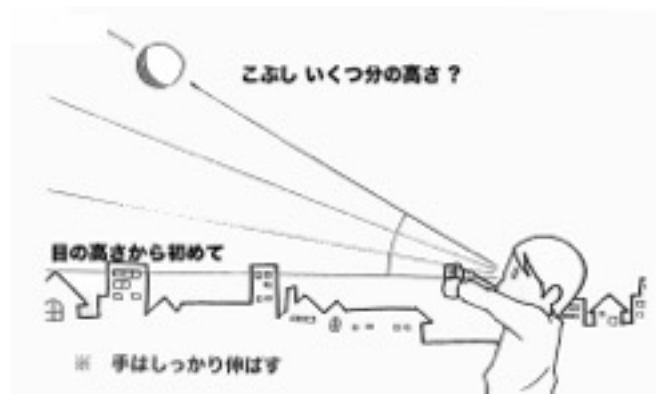
月の形はいろいろなイラストなどで書かれていますが、本当の形はどうでしょうか。自分の目でしっかりと形を確認してください。

どっちが本当？



## 毎日同じだいたい時刻に見ることにしよう

見えている方角と月の形をメモしておきましょう。はじめは西の方角で、日が経つにつれて東にずれていくことでしょう。これを実際に調べて記録するのです。1時間後はどこに月が見えるかも



調べてみよう。必ず同じ場所に立って、こぶしいくつ分の高さかな？って調べるのですよ。

### 双眼鏡があるといいな

月の表面の様子が初めて記録に残されたのは、1609年ごろのことで、ガリレオ・ガリレイの観察だと言われています。それまでは月の表面はのっぺりしてツルツルだと思われていたんですって！肉眼で見ても、月の表面には何かありそうに見えるのに、不思議なことですね。

月は地球からおよそ38万kmはなれていて、その直径は3400kmぐらいある天体です。倍率6倍ぐらいの小さい双眼鏡でも月の表面の模様はよく見

えます。望遠鏡でなくても月の観察はできるのですね。

### 毎晩変わる表面のもよう

月の表面の様子はいつも同じに見えるのではありません。光の当たり方によって、クレーターなどの影の形が変わるので、三日月、半月（上弦の月）、満月、それぞれにもようが違って見えています。よく言われる「月のうさぎ」が見えるのは、満月に近いころのようですね。下の写真で黒っぽく見える部分は「海」とよばれていますが、もちろん海水はありません。

